

平成24年度入学式 校長式辞

本日、春の香りが満ち溢れ、桜花咲き初める、この良き日、平成24年度鈴鹿工業高等専門学校入学式を挙げていただけますことを、大変嬉しく思います。

先ほど難関を突破し、入学許可を受け、名実ともに晴れて本校の学生となった学科新入生224名、4年次編入学生1名、留学生5名の併せて230名の学生のみなさん、おめでとうございます。本校を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

こうして新しい制服に身を包み、初々しさに満ちあふれ、まばゆいばかりの新入生の姿をみていると、校長としても身の引き締まる思いです。私以上に、この良き日を心待ちにされていた保護者の方にとっては、さぞかし感慨無量のこととご同慶申し上げます。誠にありがとうございます。私ども教職員は託された責任の重さを改めて認識し、ご期待にこたえるべく気持ちを新たにしているところです。

さて、本校は、国立の高専としては最も古い伝統を誇り、1962年に創立されました。今年で創立50周年を迎えます。

1962年といえば、戦後の荒廃した日本を豊かにするために、高度経済成長が始まり軌道に乗らせた時期です。高度成長の重要な担い手は工業であり、全国総合開発計画に基づき、臨海部を中心に大規模な工業地帯が形成されました。この近くの四日市臨海部も全国有数の工業地帯となったのです。

さらに国土の均衡ある発展を願って、新幹線や高速道路といった高速交通網が整備され始めた時期でもあります。1964年の東京オリンピックの前、名神高速道路も一部開通し、東海道新幹線も走るようになりました。

しかしながら、一方で、大気汚染や水質、土壌汚染、騒音・振動などといった工場や道路などからの公害も発生しました。さらに、1990年代に入ると地球規模での環境問題も深刻になりました。Green House Gas、地球温室効果ガスによる温暖化問題です。

さらに、現在は超高齢社会でもあります。65歳以上の高齢者は現在、4人に一人となっています。皆さんが社会で中堅として活躍する2035年には3人に一人が高齢者の社会でもあります。このような超高齢社会においては心身が不自由になっても、すべての人が社会生活を以前と同じように送ることができる、ノーマライゼーションの社会が求められています。

以上のように、時代の変遷とともに、社会のニーズも変化していきます。工学の技術も、この社会の要請にこたえて発展してきました。経済成長を促す技術、環境を保全する技術、福祉の向上、つまり社会発展を図る技術といったようになります。今後は、これらの三面、経済、環境、社会を統合的にバランスよく発展させる、いわばサステナビリティ、つまり持続可能性を実現する技術が求められています。

幸い本校には、工学の中核をなす、機械、電気、電子、情報、生物、化学、材

料を学ぶことができる5つの学科があります。みなさんはその一つの学科に入学されました。これからの5年間の学びの中でサステナビリティを実現する技術の基礎を学ぶことができるのです。

しかし、受け身では十分学ぶことはできません。先ほど述べましたように、社会は変化するものです。変化する社会のニーズを敏感に的確に捉える感性を養うことが必要です。この感性から発せられる問題意識から創造へとつながってほしいと思います。これが実践力です。本校の基本理念にある使命には、次のような言葉が書かれています。

「本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として、国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献する。」

皆さん方は、新しい価値の創造の担い手となることが求められています。ぜひとも、この5年間の学園生活の中で、授業を基礎にした知識、つまり、一般教養と専門知識を基礎にしつつ、社会の動向、また周りの人々の暮らしを具体的に見つめ、問題を発見し、欲を言えば当面の課題ではなく、50年、100年後の人類が喜ぶような創造性のある課題を発見していただきたいと思います。

先だって観た、NHKのクローズアップ現代で東北大学の教授の研究を紹介していました。90歳の人の若かりし頃の生活の知恵を聞き、その知恵を現代の物づくりに生かすというものです。その知恵とは、味噌、醤油の貸し借りが当たり前に行われていた時代、井戸端会議を中心にコミュニケーションが豊かであった時代。そのポイントは、物は豊かでなかったかもしれないけれども、みんなが助け合う中で心が豊かであった時代にあるわけです。この心の豊かさを再現するために、味噌、醤油、井戸を再現することは現代では時代遅れです。そこで、この先生は、ポータブル・バッテリーというアイデアを思いつきました。

現代は、原子力に頼ってはいられない世の中です。太陽光、風力、地熱、バイオマス、小水力などといった再生可能なエネルギーをいかに作り、蓄えるか、その技術の開発が求められています。ポータブル・バッテリーは、これらのエネルギーを蓄え、必要な時に使うことができる、持ち運べるバッテリーです。さらに、このバッテリーを、井戸端的なコミュニティー空間をつくり、そこに置き、だれでも使えるようにするというものです。先人からの学びが、未来に生かされるようになるわけです。このような感性を持ち、知性で実践できれば最高だと思います。

そして、もう一つの使命、それは国際的に活躍できる人材の育成です。最近の超円高の動きの中で、製造業の海外進出は加速しています。皆さんが社会で活躍する時代は一層、海外での活躍が必要とされているでしょう。海外で企業が成功するためには、言語も文化も違う現地の人から信頼を得ることが大事です。その信頼の上に立って、現地の人をうまくマネジメントして、初めて仕事が入りまくります。コミュニケーションツールとしての語学力、特に英会話力の向上は必須です。ぜひとも高専生活の中でTOEIC何点を取るとかの目標を持ってしっかり勉強していただきたい。しかし、語学力の向上だけでは不十分です。現地の文化、風土、制度などの社会を知ることも必要です。

幸い、本校には、毎年、留学生が入ってきます。今年も、マレーシア、中国、ベトナムから留学生を迎えました。皆さん、留学生とコミュニケーションを図り、国際力を養ってください。留学生も積極的に日本人に交わり、日本の企業で、しかも日本語を駆使して働ける人材になってください。

以上、本校の基本理念である、国際的に活躍でき、かつ創造性にあふれた人材に、皆さん方が育つことを願ってお話ししましたが、最後に、この五年間の高専生活を送る上で大切にしていきたいことを三つ述べて終わりにしたいと思います。

一つは、自分流のバランスの良い勉強のスタイルを作ってくださいと思います。私の場合、三つの学問を持続的に行うよう努めました。ひとつは自分の基礎・土台を作る、語学、数学、そして哲学です。二つ目は、社会を知る経済学、社会学などの社会科学です。そして三番目はもちろん専門の学問です。みなさんはこの五年間の中で試行錯誤しながら、専門分野だけに特化しない、バランスある自分流の勉学のスタイルを工夫していただきたいと思います。

二つ目は社会に出ることです。高専には豊かな課外活動があります。クラブ活動、地域貢献、ボランティアなどを通じて、世の中には、自分とは違う、自分が知らない多様な人がいるということを知ってください。それがあなた方の生き方の幅をつくります。私の場合、バリアフリーなまちづくりをしています。多様な障がいを持った人を知り、交流を続けていることが研究を進める上でも貴重な財産となっています。

そして、最後は、挑戦です。チャレンジです。自分の力を試してください。昨年度、在校生たちは素晴らしいチャレンジをしました。全国の高専を対象にした各分野で最優秀となった学生が3名も出ました。この3名に対して来週9日に、鈴鹿工業高等専門学校学生表彰特別賞を授与します。さらに、専攻科2年の衛藤君は、アジア陸上選手権大会に日本代表として走り高跳びに出場し、4位に入賞しました。日本ランキング1位です。これを讃え、国立高等専門学校機構学生表彰理事長特別賞が授与されました。このように素晴らしい先輩が皆さんにはいます。このことを誇りに皆さんも挑戦してください。

皆さんには、まだまだ形にはなっていない力があります。その力を信じてください。私たち教職員は、その力を、像を彫るがごとく、形にするべく頑張ります。この五年間で立派になったね、と言えるよう努力します。あなた方もその期待にこたえ、自らを太く大きくしてください。

皆さんのこれからの学生生活が、かけがえのない青春にふさわしい、充実した実りある5年間になることを祈って、お祝いと歓迎の言葉といたします。

平成24年4月6日

鈴鹿工業高等専門学校長
新田 保次

平成24年度専攻科入学式 校長式辞

本日、春の香りが満ち溢れ、桜花咲き初める、この良き日、平成24年度鈴鹿工業高等専門学校専攻科入学式を挙げていただけますことを、大変嬉しく思います。

学科での優秀な成績に基づいた推薦や、厳正な選抜試験を乗り越えて入学された24名の専攻科入学生の皆さん、誠におめでとうございます。教職員一同を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

高専の専攻科は、本科の教育の基礎の上に立って、専門領域における高度の知識・技能を使いこなすとともに、複合領域に対応できる幅広い視野を身につけ、高度の課題設定・問題解決能力を備えた創造性豊かな実践的技術者の育成を目指すものです。

電子機械工学専攻、応用物質工学専攻からなる本校の専攻科は、全国高専の草分け的な存在の一つとして1993年に創設され、本年で19年目を迎えます。2003年には、本科の4、5年と専攻科を合わせた4年間の「複合型生産システム工学」プログラムが、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けました。このプログラムの学習・教育目標をしっかりと実践し、本専攻科を修了することにより、国際的に活躍できるエンジニアとしてのスタートを切るお墨付きを得ることができます。さらに大学評価・学位授与機構から学士の学位が授与されます。皆さん方は、2週間前の卒業式に参加し、修了生が、専攻科修了証、JABEEプログラム修了証、学位記の三つを手にしたことを覚えていると思います。

本専攻科に入学した諸君は、大学の3年次学生に相当しますが、一般の大学3年次学生より高度な専門的な知識ならびに技能を修得していると断言できます。専攻科入学後はこの専門的基礎の上に立ち、一層の努力が求められます。21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会発展の重要な基盤となる「知識基盤社会」の時代であるといわれています。この知識基盤社会を支えるためには、物的資源の乏しい我が国においては他の国にも増して、人的資源の役割が重要な位置を占めます。この人的資源の充実に当たっては、豊かな基礎および専門的学力をベースに、社会や学術の要請に応じた柔軟な創造力、そして厳しい国際競争に打ち勝つためのコミュニケーション力を備えた人材が必要です。皆さんにはその力があります。その力を信じて、努力してください。「牛歩千里」。牛の歩みも千里を成します。コツコツとたゆまぬ努力をしてください。

また、専攻科に入ると一層研究の機会が増えるでしょう。新しいことを考え、それを形にする行為は非常に楽しいことです。これに社会的有用性が加わると喜びも増大します。常に創造することを意識し、社会に役立つことを考え、成人にふさわしい学生の道を歩んでください。

専攻科修了後は就職するのもいいでしょう。さらに勉学意欲・探究心旺盛な人は大学院進学の道も開けます。専攻科2年間の中で自分らしさを発見し、自らにあった道を選んでください。精神医学者の吉川武彦さんは、「こころ」は、自我、つまり自分らしさを底面に持つ、知、情、意の三つの側面から構成される三角錐

であるといっています。底面の自分らしさを大きくし、知・情・意の三面を一方に偏らず、等しく大きくすることが倒れにくい、安定した大きなところを形成するのです。新しい専攻科の生活の中で、自分らしさに裏打ちされた、こころも大きく育ててください。

皆さんが活躍する時代は、地球温暖化を防止し、エネルギーは化石燃料・原子力に頼らない再生可能なエネルギーを使用する持続可能な社会、高齢者や障がい者を含むすべての人たちが安心して生き生きと暮らすことができる福祉社会、さらには災害にしなやかで強い安全な社会が求められています。みなさんは今までの歴史が経験しなかった時代に生きることになります。考えようによっては幸せです。皆さんの力を強く社会が求めているのです。皆さんの力で新しい社会を創ることができます。このあたらしい社会の担い手になるべく、専攻科2年間の生活を有意義に過ごしてください。みなさんの更なる成長・発達を願って、お祝いのあいさつとします。

平成24年4月6日

鈴鹿工業高等専門学校長
新田 保次